

日本の社会が高齢化・少子化に進むにつれ、いろいろな制度が変わりつつある。その1つのベクトルとして、「選択の自由と自己責任の拡大」がある。そのベクトルに沿って新しいサービスが生まれ、そのサービスは情報処理技術を必要としている。

研究の1つの方向としてこの方向を考えてはどうだろうか？ すでに現れてきた例として、介護サービス、確定拠出型年金、カフェテリアプランなどをあげることができる。介護サービスは必要な介護の認定度合いによって与えられる給付の範囲で、どのサービスを受けるかを選択するものである。確定拠出型年金は年金の運用方法の選択肢が与えられ、自分のライフワーク・価値観から自己責任で運用するものである。カフェテリアプランは福利厚生に関して多くのメニュー（現在の生活改善もあれば、将来への備えもある）から選択して利用するものである。

このカフェテリアプランについて少し詳細に紹介しよう。日本の伝統的な企業は終身雇用制を前提とした従業員向け福利厚生サービスを提供してきた。このサービスは基本的に、全員に同じメニュー（寮、社宅、昼食費補助、社員旅行補助）を提供してきた。従業員は好むと好まざるとに関係なく、会社により一律に提供される福利厚生サービスを享受してきた。

この制度が大きく変わろうとしている。全員一律のサービスではなく、従業員1人1人が選択できるカフェテリアスタイルのものに変わろうとしている。「より少ない福利厚生費予算で、よい大きい従業員満足」。従業員は、自分のキャリアアップのため、自己訓練のため、家族のため、リフレッシュのため、老後のため、自分の責任で福利厚生のメニューを選択することを望むであろうという仮定に基づいて、日本の多くの企業がカフェテリアスタイルの福利厚生制度導入に関心を寄せている。

この制度を運用する基本的な考え方は、従業員に福利厚生の補助に利用できるポイントを与え、メニューを選択するとそのポイントを差し引くようにするものである。このやり方が福利厚生費全体を抑制し、また変動の幅の大きさを押さえるうえで有効なのではないかと期待されている。また、ポイントとお金の比率の対応をメニューのカテゴリーによって変え、その比率を毎年変えていくことにより、福利厚生構造を変えていけるのではないかと期待されている。たとえば、日本においては社宅・寮への補助が大きく、当面はこれらのポイント当たりの単価を他の単価より大きくしておき、徐々に変えて他の単価相当に変えていく。一方的に従業員が不利になる制度改定は受け入れられないので、このような段階的に変えていく仕掛けが必要とされるのである。

個人にメニュー選択の自由と責任を付与するということからインターネット（Web）ベースのシステムが期待される。問合せや各種代行サービスのためにコールセンタが設けられ、そこではCTI技術が活用される。もちろん、個人情報としてポイントが管理されなければならないし、ペイロールシステムとも連動しなければならない。ポイント管理には周辺にいろいろなサービスアイデアが生まれる。

「選択の自由と自己責任」。従来の日本人には必ずしも馴染まないベクトルである。このベクトルがどうなるか、そのなかでIT技術がどう進むかに着目していきたい。



**HOT
TIME**

